

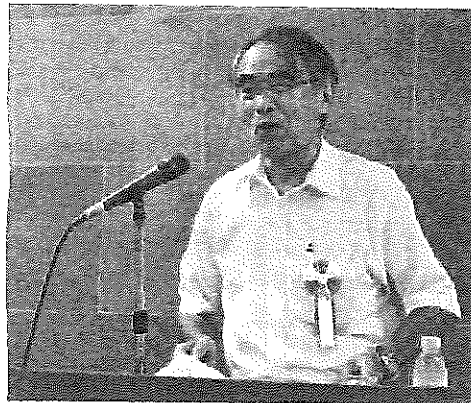
神社界

神儒仏合同の講演会

神田神社は7月29日に「く」を共催した。約150人が参加した。

(東京都千代田区)で、國學院大兼任講師で、斯文会(湯島聖堂)、中湯島天満宮権禰宜の小野村元東方研究所(東方学)善一郎氏は「大被詞」を院)と第9回神儒仏合同 聴衆と奏上し、「無限の講演会『今』を生き抜く 過去・未来の中で、神道

の言葉でいう、永遠のてくれる大被詞を私は多た、ぶれない覚悟があれば、今を生き抜ける」と
 『なかいま』を生きるこくの日本人に伝えていきば、今を生き抜ける」と
 とが大切。そう気付かせたい」などと語った。語ったII写真。



日本女子大の谷中 駒澤大の田上太秀名誉
 信一名誉教授は「子曰く、君子は和して同せず、小人は同じて和せず」という『論語』の言葉などを紹介。「知識よりも知恵こそが必要で、それに支えられ
 教授は「世は無常であるから、今なすべきことを怠けず努めよ」という『涅槃経』中の釈迦の最期の言葉を引き、「桜が年中咲いていたら誰が花を見えますか」と無常について軽妙に話した。